

初級教科書に現われる「ええ」についての調査報告

—初級における応答表現指導についての一考察—

二宮 理佳・金山 泰子

1. はじめに

「はい」「ええ」といった応答表現は、コミュニケーションにおいて極めて頻度の高い言葉である。しかしながら「はい」「ええ」を状況や対話場面で意識的に使い分けられる学生は稀だと思われる。「はい」「ええ」という表現は初級において早い時期に初出しているが、テキストにおいては「はい」「ええ」ともに肯定の意味を表し、「ええ」は「はい」よりややくだけた表現である、といった程度にしか説明されていない。しかし「はい」「ええ」が常に置き換え可能ではなく、また単なる丁寧さだけの違いではないということは先行研究からも明らかである。従って、日本語教育の現場において「はい」「ええ」の使い分けについて適宜簡潔に説明することによって、早い時期からその相違点を意識させることは有意だと考えられる。

本稿では、先行研究を踏まえつつ、初級教科書における「ええ」の導入時期、意味説明、コンテキストを調査し、初級の応答表現指導について考察する。

2. 先行研究

北川 (1977) は、「はい」の本質的な意味は「承諾・肯定」ではないとした上で、「はい」「ええ」の違いについて次のように定義している。「はい」は「相手の発話がこちらにはっきりと届いたということを敬意をもって表明する」(p.66)のに対し、「ええ」は「相手の言ったことに対して『自分もそのように思う』という自分の気持ちを表出する」(p.66)としている。北川はこの定義にもとづき、「自分もそう思う」と答えるのが不自然な場合には「ええ」で応答することはできないと説明している。

日向 (1980) は、北川の定義を「認知応答」(はい)、「同意応答」(ええ)と名づけ、さらなる考察を試みている。その中で、「はい」は「どうぞ」や「さあ」に通じる積極的な機能を果たし、談話場面の設立・維持に関与する一方で、「ええ」にはそのような機能はないとしている。また話者同士が同じ利害関係の立場にあり、談話場面を共有する場合や共通の現象を話題にしているときは、同意応答あるいは共鳴応答としての「ええ」が適切であるとし、一方、情報伝達文および絶対的な命令文への応答には「はい」が現れやすいと指摘する。また聞き手の気持ち・意向にそって依頼するような発話および質問文に対する応答としては、「はい」「ええ」「うん」が待遇的に使い分けられると述べている。

McGloin (1991) は北川・日向の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を「談話・場面を進行させる」、「ええ」の機能を「参加・協調」と説明している(1)。

富樫 (2002) は、「はい」の本質を単なる情報獲得の標示としてではなく、情報処理を心的操作したということの標識として捉え、その機能を「提示された情報に対し、それに関連した半活性化情報が多数呼び出されたことを示す」(p.147)と定義している。

これらの先行研究を踏まえて、筆者らは「ええ」の機能について次のように考察した（二宮・金山 2005）。情報の共有の度合いが高いほど「ええ」の使用許容度は高まり、話者間の距離が近づいた結果として親近感・同等感を増すと思われる。さらに「ええ」の持つ「同意応答」という機能について以下のように考察を進めた。同意とは相手の発話内容の是非（同意するか否か）を判断するプロセスを経て表出されるものだと考えられる。つまり「ええ」は話者の判断に基づく相手への意見を表明しており、単なる応答表現ではなく、主張が含まれた主体的な表現なのではないか。したがって、「はい」が自らの意見を伴わない受動的な表現であるのに対し、「ええ」は積極的に自己の主張を表明し、相手に対して自らを同等な立場に位置づけようとする表現と言えるのではないか。

以上の考察を踏まえて、筆者らは母語話者と非母語話者を対象に「はい」と「ええ」の認識の違いに関するアンケートを実施した（金山・二宮 2006）。その結果、以下のことがわかった。

- ① 非母語話者は、話者間の情報の共有という観点に対する意識が薄く、そのために先行文のない場合や呼びかけに対する応答に「ええ」を使ってしまうという誤用が見られた。
- ② 非母語話者は主に待遇の面において「はい」と「ええ」を使い分けている。一方、母語話者の使い分けの意識は、待遇面にとどまらず、場面／場所／状況、話題、気持ち、性別、イメージなど多岐にわたっている。
- ③ 母語話者に比べて非母語話者は「ええ」の使用頻度が低い。これは非母語話者が「ええ」の機能・効果・イメージ等について明確に理解していないことに起因しているかもしれない。
- ④ 「ええ」にはかなりの幅があり、個々の意識によってその使い方・捉え方が異なることが、母語話者の回答から明らかになった。

本稿では、以上の先行研究を踏まえて初級教科書における応答表現の現われ方について調査した。以下に、調査方法および調査結果を示し、さらに調査結果に基づき、考察を進める。

3. 調査の方法

7つの日本語の初級教科書、「ICUの日本語 vol.1~3」（ICU）、「げんき I、II」（GE）、「Situational Functional Japanese vol.1~3」（SFJ）、「Japanese for Busy People vol.1~3」（JBP）、「新日本語の基礎 I、II」（SNK）、「Japanese for Everyone」（JFE）、「ようこそ I、II」（YK）をとりあげ、下記の項目について調査し、その傾向や問題点、課題について検討する。

- ① 「ええ」の意味説明
- ② 「ええ」が導入される課および導入時の文型およびコンテキスト
- ③ 先行文別に見る「はい」「ええ」の現われ方

先行文の分類は、主に二宮・金山（2005）の考察における分類に、初級教科書に頻出する文法項目を加える。二宮・金山（2005）は、先行文を、「はい」のみが使える文、「はい」が自然な文

（「ええ」も使えるが不自然）、「はい」「ええ」共に使用可能な文、という観点から以下のように分類した。

表1 二宮・金山（2005）における先行文の分類

A. 「はい」のみが使える文 例（1）	B. 「はい」のみが使える文 例（2） （「ええ」の可能性がゼロではないが不自然な場合）	C. 「はい」「ええ」共に使用可能な文例
① 先行文がない場合 ② 先行文が呼びかけ語からのみ成り立つ場合	① 先行文が情報を提示する平叙文の場合 ② 先行文が命令文の場合 ③ 先行文が疑問詞を伴う疑問文で、聞き手に情報を求める場合	① 先行文が真偽疑問文の場合 ② 先行文が「ね」を伴う文（確認文・感嘆文等）の場合

上記の分類の文例を以下に示す。②

A：「はい」のみが使える文例（1）

① 先行文がない場合

例1（A：_____）

B：はい、おみやげ。

（日向 220）

② 先行文が呼びかけ語からのみ成り立つ場合

例2 A：山田くん。

B：はい。

（日本語文型辞典 490）

例3 A：（訪問者）すみません。

B：（事務員）はい。

（日向 226）

B：「はい」のみが使える文例（2）（「ええ」の可能性がゼロではないが不自然な場合）

① 先行文が情報を提示する平叙文の場合

例4 A（女子事務員）（部屋を出ていく際に）

「あう、ちょっと郵便局まで行ってきます」

B（男子事務員）「はい」

（日向 223）

例5 (スポーツセンターの若いインストラクターが年配の社会人の客に使い方を説明している)

A: このレバーを使うと、椅子の高さが調節できます。

B: はい。 / ? ええ。

② 先行文が命令文の場合

例6 A: ちょっと待ちな。

B: はい。

(日向 225)

例7 (教師が学生に向かって)

A: もっとしっかり勉強しなさい。

B: はい。 / ? ええ。

③ 先行文が疑問詞を伴う疑問文で、聞き手に情報を求める場合

例8 A: 私のかばんはどこですか。

B: はい、あそこです。

(日向 224)

例9 (映画館の窓口の従業員 (B) が客 (A) に上演時間の説明をしている)

A: ○○の late show は何時からですか?

B: はい、8時からです。 / ×ええ、8時からです。

C: 「はい」「ええ」共に使用可能な文例について

① 先行文が真偽疑問文の場合

例10 A: 掃除は終わりましたか。

B: はい / ええ / うん。

(日向 224)

例11 A: 本屋はこの階ですか。

B: はい、そうです。(通りがかりの人、知人) / ええ、そうです。(デパートの従業員)

② 先行文が「ね」を伴う文(確認文・感嘆文等)の場合

例12 A: 今日はスペイン料理ですね。

B: はい / ええ / うん。

(日向 224)

例13 A: きれいですね。

B: ええ、きれいですね。

(日向 222)

なお、本調査では聞き手に行為を求める「～てください」という文は、命令文に属するものとする。初級教科書に現われる「～てください」文は、相手の意向をたずねているというより、指示文に近いと考えたため命令文として扱った。相手の意向をたずねる「～ていただきたいんですが」「～ませんか」「～ましょう」「～ましょうか」などは勧誘文・依頼文として、以下に別項目を設けた。また『～ね』を伴う文には同意文を含む。

本稿では、初級文型における応答表現の現われ方をより詳細に観察するために、上記の分類に以下の先行文を加える。

- ① 勧誘・依頼（～ませんか、～ましょう、～ましょうか、いかがですか）
- ② 許可求め（～てもいいですか）
- ③ 援助申し出（～ましょうか）
- ④ アドバイス（～たほうがいいですよ）
- ⑤ あいづち
- ⑥ 意見求めの疑問詞文（例：「沖縄はどうでしたか？」→「楽しかったですよ。」）

なお、都合を尋ねる文、例えば「土曜日はどうですか」に類する文例は真偽疑問文に属するものとする。

4. 調査結果

項目別に調査結果をまとめ、適宜、全体の傾向、特記事項、問題点の指摘等を加える。

4-1：初級教科書における「ええ」の意味説明

表2 初級教科書における「ええ」の意味説明

教科書	意味説明・英訳
I C U	yes, yeah (vol.1 巻末語彙リスト p.244)
G E	Yes (索引 p.317) (表現ノート p.17) Both <i>hai</i> and <i>ee</i> means “yes” in response to yes-no questions. Compared to <i>hai</i> , <i>ee</i> is more conversational and relaxed. In more informal situations, <i>un</i> is used. <i>Hai</i> is also used to respond to a knock at the door or to the calling of one’s name, meaning “Here,” as follows (<i>Ee</i> cannot be replaced in this case.)
S F J	(vol.1 Pre-session 【Explanation】 p.52) Both <i>un</i> and <i>ee</i> means <i>yes</i> . <i>Ee</i> (sometimes <i>hai</i>)is more polite than <i>un</i> .

	<p>(第1課 Conversation Note vol.1 p.18)</p> <p>c. short responses</p> <p>はい can be used as a short response when your name is called out:</p> <p>①A: Bさん、ちよつと。 B: はい。</p> <p>②A: ちよつと待って。 B: はい。</p> <p>In the above situations, A will usually be B's higher. Note that ええ and うん cannot be used instead of はい when replying to a higher's request or command etc. In response to Y/N question, はい is used for a positive answer. In this case, you can also use ええ instead of はい。</p> <p>③A: お国はインドですか。 B: ええ。</p> <p>④A: ごせんもんは けいざいですか。 B: ええ。</p>
JFB	“yes.” Less formal than はい.
SNK	<p>(「日本語の教え方の秘訣 上」第6課 p.168) (3)</p> <p>ええ: 「はい」と同じ意味で「はい」より口語的。「ええ」は会話で「はい」より多く肯定の答えに使われる。ただし次のような使い方はできない。</p> <p>1) T: リーさん。(呼ぶ) S: ○はい。×ええ。</p> <p>2) A: ○はい、どうぞ。×ええ、どうぞ。</p>
JFE	<p>(INDEX p.360, 361)</p> <p>ええ: yeah, that's right. (more casual than 「はい」)</p> <p>はい: yes, that's right, all right, here you are.</p> <p>(L1 Function V p.27)</p> <p>Complying</p> <p>はい。(ええ。)(うん。): Certainly</p> <p>いいですよ。はい、どうぞ: Year. OK.</p> <p>はい、わかりました。: Certainly. I understand. (I'll do it.)</p>
YK	<p>(Getting Started- Other Useful Words p.51)</p> <p>ええ: yes (はい: yes) (はい、そうです: Yes, that's right.)</p>

ほとんどのテキストが英訳は「yes」または「『はい』よりくだけた表現」という記述にとどまっている。しかし「新日本語の基礎」は、「日本語の教え方の秘訣 上」に詳しい説明がある。「げんき」は学生が直接読めるテキストの表現ノートの部分に、上記のような説明が英語でなされている。「Japanese for Everyone」の英訳には「はい」と「ええ」の違いがより明確に提示されている。「はい」に“here you are”という英訳が付されており、「ええ」とは異なる「はい」の機能をカバーした記述になっている。ただし、「ええ」はたしかに「はい」よりくだけた表現ではあるが、英語の“yeah”に相当するほどくだけた応答表現ではないのではないかと

思われる。また「Situational Functional Japanese」では、目上からの命令や依頼には「はい」で応答することが説明されている。また「はい」「ええ」は共に肯定応答であると説明している。なお Ee(sometimes hai)という記述から、肯定応答としては「ええ」を主に提示していることがわかる。

4-2：初級教科書における「ええ」の導入課および導入時のコンテキスト

表3 初級教科書における「ええ」の導入課および導入時のコンテキスト

教科書	導入課	コンテキスト
ICU	第1課	リーさんは学生ですか。 はい／ええ、学生です。
GE	第1課	たけし：あの、りゅうがくせいですか。 メアリー：ええ、アリゾナだいがくのがくせいです。
SFJ	Pre-session	A：シャルマさんは留学生ですか。 B：ええ、アリゾナだいがくのがくせいです。
JBP	第2課	(名刺を渡す場面) スミス：これは田中さんの名前ですか。 田中：ええ、そうです。
SNK	第6課	(ラオは外国人研修生。佐藤はその同僚) ラオ：あした、ひまですか。 佐藤：ええ。
JFE	第1課	(Immigrationで) Immigration officer：パスポートを見せてください。 マイケル：はい。 Immigration officer：マイケル・ウェッブさんですね。 マイケル：ええ、そうです。
YK	Getting Started	Dialogue Kawamura:Machida-san ha sakana ga suki desu ka. Machida:Ee, toku ni sashimi ga suki desu.

ほとんどのテキストにおいて、「ええ」は Pre-lesson、第一課、第二課など始めのレッスンで導入されている。しかし、「新日本語の基礎」は第六課で初出している。

また、ほとんどのテキストでは、「NはNです」が導入される課で、真偽疑問文の応答として導入されている。一方、「Japanese for Everyone」は、依頼文「～てください」の応答に「はい」、文末が「～ね」で終わる確認文の応答として「ええ」を初出させている。また「はい」と「ええ」が一つのダイアログの中で提示されていることにより、異なる機能（承認応答と同意応答）が明

確に浮かび上がる形になっている。前項で述べたように、「Japanese for Everyone」では「はい」に here you are という英訳が併記されていることから、「はい」「ええ」の違いを意識していることが窺える。

4-3：初級教科書における先行文別「はい」「ええ」の現われ方

本項の調査にあたっては、二宮・金山（2005）の考察における先行文の分類に従う。二宮・金山（2005）では「はい」のみ使える文例、「はい」が自然な文例、「はい」「ええ」共に使える文例、の3つのカテゴリーに分類し、考察した。今回新たに加えた先行文は、このカテゴリーには分類していない。

上記の先行文の分類にしたがって、各教科書における「ええ」「はい」の現われ方を考察する。表中の「—」「×」「はい」「ええ」「はい／ええ」の示す内容は、以下の通りである。

- ・はい：「はい」のみが提示されている。
- ・ええ：「ええ」のみが提示されている。
- ・はい／ええ：「はい」「ええ」が併記されている。
- ・×：該当する先行文の文例はあるが、「はい」も「ええ」も使われていない。
例) 受付：食後に飲んでください。
患者：わかりました。
- ・—：該当する先行文の文例がない。

表4 初級教科書における「はい」「ええ」の現われ方

可能な 応答詞		ICU	GE	SFJ	JBP	SNK	JFE	YK
「はい」 のみ 可能	なし	—	—	はい	—	—	はい	—
	呼びかけ	—	—	はい	はい	はい	はい	—
「はい」 が自然	命令文 (～てください)	はい	はい ×	はい	はい	はい ×	はい	はい
	情報提示の平叙文	×	×	はい ×	はい ×	はい	はい ×	はい ×
	情報求めの疑問詞文	×	×	はい ええ ×	×	×	はい ええ ×	×
「はい」 「ええ」 共に 可能	真偽疑問文	はい/ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ	はい ええ
	「ね」を伴う文 (「～でしょう？」 文を含む)	ええ	ええ	ええ	ええ ×	ええ	ええ	ええ
先行文	勧誘・依頼	はい ええ ×	ええ	ええ	はい ええ ×	はい ええ ×	ええ	ええ
	許可求め	ええ	はい ええ	はい ええ (ああ) ×	はい	ええ	ええ	ええ
	援助申し出	ええ	×	—	ええ	ええ	ええ	ええ ×
	アドバイス	はい ×	×	はい ×	×	はい ええ ×	ええ	ええ
	意見求めの疑問詞文	×	×	×	×	×	ええ	ええ ×

上記の表に基き、初級教科書における先行文別「ええ」の現われ方について、先行研究を踏まえて、傾向や特徴、問題点などを指摘しつつ、整理する。

① 先行文なし・呼びかけ

この分類に属するのは、おみやげなどを渡す際の「はい、おみやげ」や、名前を呼ばれたときや、「すみません」に対する応答などに類するものである。このような場面では、話者間に情報の共有がないため、「ええ」は使えず、「はい」のみが使える。

このような、先行文なし、「呼びかけ」に対する応答が導入されているテキストは少ない。ただし、「げんき」と「新日本語の基礎」はテキストでは導入されていないが、表現ノートや教師用指導書において説明がなされている。

② 命令文（～てください）

日向（1980）は、命令文には聞き手にはっきり行動を求めるものから、聞き手の行動に期待するような依頼文までいくつかの段階があり、絶対的に命令する発話の応答には「ええ」は現われにくいと述べている。北川（1977）も「ええ」を使うと自分に向けられた命令文に対し「自分もそう思います」という意味になってしまい、不自然だとしている。今回の調査対象のテキストは全て、「～てください」に対する応答は「はい」で統一されている。「Situational Functional Japanese」では、依頼文・命令文に対しては「はい」が適切であることが説明されている。

なお、「げんき」に×があるが、これは「はい」「ええ」共になく、「わかりました」のみで応答している例である。

③ 情報提示の平叙文

日向（1980）は、情報伝達文に対しては「ええ」で応答せず、話し手の情報を認知したとして、「はい」で応答するのが一般的であるとしている。調査対象の教科書に見られた文例を一部抜粋して以下に示す。

「新日本語の基礎」10課ダイアログ

木村：わかりませんか。じゃ、地図を書きます。駅はここです。

ラオ：はい。

「ようこそⅡ」Language Functions and Situations (p.189)

先生：はい。それから、クラッチを踏み、シフトバーをRに入れます。

町田：はい、入れました。

「Japanese for Everyone」(p.201)

マイケル：決まったらもう一度来ます。

事務員：はい、お待ちしております。

④ 情報求めの疑問文

情報求めの疑問文とは、「だれ」「何」「どこ」「いつ」などの疑問詞を伴う疑問文である。このタイプの疑問文に対しては応答詞は必要ないが、北川(1977)、日向(1980)の解釈によれば、相手の発話を受け取ったという認知応答として「はい」が現われることがある。しかし、「ええ」で応じるのは一般的ではないとしている。

調査対象のテキストの中では「Situational Functional Japanese」と「Japanese for Everyone」にのみ「はい」が見られる。つまり、「Situational Functional Japanese」と「Japanese for Everyone」では、肯定応答ではなく、情報を受け取ったというサインとしての「はい」の機能が提示されている。なお、「Situational Functional Japanese」には以下のように「ええ」が見られるが、この例はむしろ、真偽疑問文に近い、儀礼的・挨拶表現と考えられる。「どちらへ」という質問は「お出かけですか」という真偽疑問文に類するものと考えられる。

「Situational Functional Japanese」(p.47)

A：どちらへ。

B：ええ。ちょっとそこまで。

⑤ 真偽疑問文

日向(1980)は、真偽疑問文に対する肯定応答としては、「はい」「ええ」「うん」のいずれも使え、相手・場面等により、待遇的に使い分けられるとしている。真偽疑問文に対する肯定応答は、どのテキストも「はい」「ええ」とも見られる。

ただし「ようこそ」は、敬語を導入する30課で初めて「はい」が現われる。

⑥ 「～ね」を伴う文（「～でしょう(?)」文を含む）

日向(1980)は、「ね」を伴う感嘆文を先行文とする場面では、A B共に同じ情報を共有していることが前提となり、「ええ」が現われやすいと指摘し、確認文に対しては待遇的に「はい」「ええ」「うん」が使い分けられるとしている。また、「ね」は聞き手との親しい関係において許され、そのため「ね」を伴う先行文には「ええ」が現われやすいと説明している。また話者同士が同じ利害関係の立場にあり、談話場面を共有する場合や共通の現象を話題にしているときは、同意応答あるいは共鳴応答としての「ええ」が適切としている。

7冊全ての教科書で「ええ」が使われている。「Situational Functional Japanese」と「Japanese for Everyone」では「はい」が見られるが、これは目上に対する目下の応答等である。「～ね」文に対する「はい」応答が見られた一例を以下に示す。

「Japanese for Everyone」 (L17 Dialogue p.210)

At the office, section manager, Kitamura, orders Michael to go to Osaka on business.

北村：ウエップ君、ちょっと。

マイケル：はい。

北村：あのね、来週の金曜日に大阪に行ってほしいんだけど…。

マイケル：え、大阪ですか。

北村：うん。大阪のうちの子会社を知っているね。

マイケル：はい。第一貿易という会社ですね。

北村：そう。そこの会議に出席してほしいんだ。

なお、以下の例は先行文に「ね」はないが、同意応答と考えられる。

「Japanese for Everyone」 (L4 Dialogue p.58)

マイケル：飛行機の中ではよく寝ました。

バーバラ：ええ、マイケルはどこでもよく寝ます。

「Japanese for Everyone」 (L22 Dialogue p.269)

マイケル：まだちょっとあついけど、このくらいあついほうが、からだにいいような気がします。

田中：ええ。ここの温泉は肩こりや胃の病気にいいらしいですよ。

上記2例は、談話場面を共有し、共通の現象を話題にしているため、同意応答あるいは共鳴応答としての「ええ」が使われていると考えられる。

「Situational Functional Japanese」

(L1 p.24 Strategies-3 How to End a Conversation -1.After meeting)

A：それじゃ、また。

B：ええ、じゃ、また。

上記の例は、「また」の後に「会いましょう」が略されていると考えられるため、Bが同意応答で応じていると思われる。

⑦ 勧誘文・依頼文

日向(1980)は、聞き手の気持ち・意向にそって依頼するような発話及び質問文に対する応答としては、「はい」「ええ」「うん」が相手・場面等に応じて待遇的に使い分けられると述べている。調査対象全ての教科書に「ええ」が見られる。

「Japanese For Everyone」は、人物の設定や関係が細かく設定されていることから、人間関係による言葉の使い分けを意識的に提示していることがわかる。たとえば、見知らぬ人から依頼される場面や同僚同士の会話が提示されている。また、性別による応答詞の違いも提示されている。さらに「はい」「ええ」の違いが英訳で示されている。

「Japanese for Everyone」(p.214 Exercise 2)

1) To someone you don't know in the park.

A: すみません、カメラのシャッターをおしてほしいんですけど。

いただきたいんですが。

B: ええ、いいですよ。

3) Between fellow workers at lunch time.

A: 黒田さん、ぼくにもハンバーガーを買ってきてほしいんですけど。

いただきたいんですが。

B: ええ、いいですよ。野村さんもいかが？

C: そうだな。ぼくにも買ってよ

買ってきていただきたいな。

p.212 <Between equals>

ex.1

A: あの、ちょっと、テーブルの上の塩を取ってほしいんですけど。

B(man): ああ、いいよ / (woman): ええ、いいわよ。

ex.1

A: すみません。この荷物をはこんでもらいたいですけど。

B: はい (All right)。 / ええ、いいですよ (Sure thing)。

⑧ 許可求め

許可を求める文型「～でもいいですか」は、「はい」より「ええ」での応答詞が多く見られた。

「ようこそⅡ」では、この文型の説明部分 (p.114) に「コミュニケーション・ノート」として許可を求められたときの応答のしかたをリストアップしている。許可を与える際の答え方は「ええ+どうぞ/けっこうですよ/もちろんです/ご自由に/どうぞお使いください」である。全て「ええ」の応答例である。

⑨ 援助申し出

援助を申し出る文型「～ましようか」に対する応答詞は「ええ」しか見られなかった。また、応答詞を使っていない教科書が2冊あった。

⑩ アドバイス

アドバイスを与える文型「～の方がいいですよ」「～ばいいですよ」「～たらどうですか」などについては、「はい」のみが2冊、「ええ」のみが2冊、「はい」「ええ」どちらのケースもあったのが1冊である。待遇差に応じて「はい」が「ええ」使い分けられている。

なお、「ようこそⅡ」では、この文型の説明部分 (p.120) に「コミュニケーション・ノート」としてアドバイスをもらったときの応答のしかたをのせている。「ええ+そうですね/そうします/それはいい考えですね/そうですね。でも…/ええ、そうですが、ちょっと…」であり、応答例は全て「ええ」になっている。

⑪ 意見求めの疑問詞文

意見求めの疑問詞文とは、「どうですか」「どう思いますか」「何だと思えますか」などで、応答詞は必要ないとされるが、二宮・金山 (2005) は、話者間の情報の共有が前提となって意見を求めたり、相談している場合は「ええ」も可能であるとした。調査対象のほとんどの教科書で応答詞は見られなかったが、2冊のみ「ええ」の応答詞が見られた。以下に例を示す。

「Japanese For Everyone」(L5 p.70)

土田：どうですか。東京のすしは。

バーバラ：ええ、とてもおいしかったわ。

「Japanese for Everyone」(L6 p.82)

土田：オフィスの人はどうですか。

バーバラ：ええ、みんなしんせつであかるい人たちでした。

以上、初級教科書における先行文別「ええ」の現われ方について概観を示した。なお、各教科書に見られた特徴を以下に挙げておく。

「げんき」は口頭練習での肯定応答はすべて「はい」が例示されているが、ダイアログの中では「ええ」「はい」ともに見られる。

「ようこそ」は初級文型 42 項目のうち、29 項目までは全て「ええ」で、敬語を導入する 30 課で初めて「はい」が現われる。その部分まで目上の登場人物を使わなかったため可能になったことだが、待遇差からの使い分けを定着させたり、「ええ」「はい」の使い分けを意識させる上では他の教科書には見られない興味深いやり方である。

「Japanese for Everyone」は、ダイアログ中心のテキストで、「はい」「ええ」「ああ」など応答表現が多様で、初級から自然な会話を紹介している。

「Situational Functional Japanese」もまた応答表現が多様で会話が自然である。

5. 考察

以上の結果を踏まえて、初級において応答表現を導入する際に留意すべき点について考察し、具体的な改善案を提案する。

5-1：導入時期

できれば早い時期に「はい」「ええ」に違いがあることを意識させたい。しかしながら、真偽疑問文しか導入されていない段階で「はい」「ええ」を同時に提示しても違いが明らかにならない。したがって、「はい」「ええ」の違いが浮かび上がるような文型が導入される際に、提示すべきである。

たとえば「Japanese for Everyone」は、依頼文「～てください」の応答に「はい」、文末が「～ね」で終わる確認文の応答として「ええ」を初出させている。「はい」と「ええ」が一つのダイアログの中で提示されていることにより、異なる機能（承認応答と同意応答）が明確に浮かび上がる形になっている。

5-2：意味説明

学生の目にふれる単語リストや表現ノートなどで、「はい」「ええ」の違いについての説明を適宜織り込むことが大切であろう。意味や英訳については、以下の点について適宜説明を加えることが必要だと考えられる。

- ① 「ええ」は「はい」のカジュアル表現といった説明は避ける。
- ② 「ええ」と「はい」の違いは待遇差だけではないという説明を加える。
- ③ 「はい」「ええ」は単に肯定応答ではなく、「はい」には認知応答、「ええ」には同意応答・共鳴応答などの機能があることを説明する。
- ④ 先行文がないとき、呼びかけに対しては「はい」であり、「ええ」は使えないということを明示すべきである。
- ⑤ 命令文に対しては、「はい」で応答することが自然、適切であることを明示すべきである。また、命令文に対する応答は「ええ」は不可であること、「～てください」に対しては「はい」で応答することが自然、適切であることを明示すべきである。
- ⑥ 「～ね」を伴う先行文に対しては、「ええ」が現われやすいことを指摘することにより、「ええ」の同意応答としての機能が明確に指導できる。
- ⑦ 「ええ」は同意表現であり、相手の発話内容に同意するか否かというプロセスがあるため、「はい」より主体的・積極的な表現だ（二宮・金山 2005）ということに言及する。
- ⑧ 「ええ」が幅のある表現であるという説明も適宜加える。金山・二宮(2006)の調査結果からは、「ええ」は相手によって受け取り方が違い、ネガティブにもポジティブにもなり得ることが明らかになった。つまり「ええ」には幅があるため、注意を要するということに言及する。

5-3: コンテキストおよび導入方法

先行研究および調査結果を踏まえて、「ええ」「はい」の誤用を避け、また「ええ」「はい」の使い分けを意識させるための指導について考察する。

筆者らの調査（金山・二宮 2006）では、非母語話者の「はい」「ええ」の使い分けの意識が、改まり度による認識にとどまっていることが明らかになっている。非母語話者は、話者間の情報の共有という観点について意識が薄く、そのために先行文のない場合や呼びかけに対する応答に「ええ」を使ってしまうという誤用が多かった。一番誤用が多かったのは先行文がない場合、次に多かったのは呼びかけに対しての応答である。

したがって、先行文なし、または先行文が「呼びかけ」の文例を、初級の段階で取り入れておき、「ええ」が可能である文例には話者間の情報の共有が必要であることを認識させることは有意であると考えられる。先行文なしの文例があったのは2冊、先行文が「呼びかけ」の文例が見られたのは4冊だった。しかしながら、既存のダイアログにこの部分を加えることはさほど困難なことでない。以下、具体的な例を見られたい。

案①-1

例えば「新日本語の基礎 I」の12課には以下のようなダイアログがある。

ラオ：ただいま。

木村：お帰りなさい。旅行はどうでしたか。

ラオ：楽しかったです。（以下続く）

上記の会話に以下のように2フレーズ加えることで、先行文のない場合に対する応答導入が可能になる。

ラオ：ただいま。

木村：お帰りなさい。

ラオ：はい、おみやげ。

木村さん：ありがとう。旅行はどうでしたか。

案①-2

「ICUの日本語 vol.1」の6課のドリルには以下のような店員との会話例がある。

A：すみません。切手はありますか。

B：ありますよ。

A：じゃ、50円のを5枚ください。

この会話例では、「すみません」の後に認知応答の「はい」を入れ、「切手はありますか。」の後に肯定応答の「はい」を加えることで、「はい」の二つの異なる機能が紹介できる。

また、命令文に対する応答には「はい」が自然であり、絶対的に命令する発話の応答には「ええ」は現われにくい(日向 1980)。命令文に対する応答は基本的に「はい」であるという認識は非母語話者にも出来ているようではあるが、人物設定(教師が学生に注意している)に助けられ、待遇面だけで判断している可能性も考えられた(金山・二宮 2006)。したがって初級教科書に命令文の会話例を取り入れておくことが望ましい。初級の段階で絶対的に命令する会話を使用することは難しいが、命令文に近い依頼文(「～てください」)で代用できる。「ICU の日本語」の 9 課のドリルには、大家にアパートのルールを説明されている会話が例示されている。また「げんき I」の 6 課には、学生が教師に注意されている会話がある。これらは人物設定・状況設定を効果的に使い、絶対的な命令に近いような「～てください」文を提示している好例である。

その他、効果的と思われる案、および調査対象教科書に見られた好例を以下に掲げる。

①既存の会話例に説明を追加する

「ICU の日本語」にはダイアログが使われていないが、巻末にロールプレイのモデル会話のせられている。「ICU の日本語」のようにダイアログを使っていない教科書では、この部分のような流れのある会話を利用し、「ええ」と「はい」の違いを紹介するのも一案である。また、4 課のロールプレイには、お茶を出す際の「はい、どうぞ」を使う部分があるので、ここで一言「ええ、どうぞ」は不可であることに言及する、または、モデル会話の注に添える等で違いを意識させられる。

②既存の会話例に練習を追加する

「ICU の日本語」の 10 課では「でしょう(?)」が新出文法として紹介されている。それに付随してフォーメーションにも「でしょう(?)」の文を作る口頭練習が提示されている。しかし、ドリルにはこの文型を使う練習はない。フォーメーションの練習の際に「でしょう(?)」文の受け答えに「ええ」を加えて口頭練習させたり、A:「～でしょう?」→B:「ええ」/「e.g.そうですか?」などの一往復の簡単なドリルを追加し、一言「ええ」の方が現れやすいことに言及すれば、同意応答では「ええ」が出やすいことに意識を向けられるだろう。

③ロールプレイにおける人物設定・場面設定を有効に使う

ロールプレイを取り入れている教科書では、ロールプレイの人物設定や場面設定を明確に提示し、「はい」「ええ」のちがいを導入する。

例：店員と客の会話では、店員は常に「はい」で応対する。

例：パーティーで初めて会った学生同士という場面を設定し、最初はお互いに「はい」で会話を始め、親近感が増すにつれて「ええ」「うん」へと変化させていく。
「はい」「ええ」「うん」のグラデーションを意識させる上で有効だろう。

④調査対象教科書に見られた好例

- 1) 金山・二宮(2006)の調査では、「ええ」にはかなりの幅があり、個々の意識によってその使い方・捉え方が異なり、否定的なイメージもあれば、肯定的なイメージもあることがわかった。このように「ええ」が幅のある表現であるという説明も適宜加えることが必要であると思われる。調査対象教科書にはこのような「ええ」の幅や含みを意識させるのに効果的なくつかの好例が見られた。たとえば、「Japanese for Everyone」を始めいくつかの教科書に以下のような会話が採用されていたが、応答詞の後に文、またはフレーズを伴う場合は「ええ」が自然である。

「Japanese For Everyone」(4課 FunctionVI p.67)

A: ~たほうがいいんじゃないありませんか?

B: ええ。でもちよつと・・・

「Japanese For Everyone」(3課 exiercise2 p.48)

A: 仕事はおもしろいですか。

B: ええ、おもしろいですが、とてもいそがしいです。

上記のような例を提示して、「ええ」には含みがあることを意識させることができる。後者の例などは、初級の始めに導入される文型だが、後ろに情報を追加させることは可能であろう。なお、この練習には“Answer the questions in the affirmative, but add some qualifying or contrasting of your own.”という指示があり、「ええ」には含みがあることを意識していることが伺える。

6. おわりに

阪本(2001)は、言葉遣いは「個性とアイデンティティーの表明」(p.36)であり、相手との関係を規定する「関係生成的な側面」(p.37)を持つことを指摘している。ことに、身分制度が崩壊し序列意識の希薄になった現代社会にあつて、言葉遣いは社会から規定されるものではなく、その表現を選択した発話者自身の個性やアイデンティティーの表明となる傾向が強くなっていると阪本は指摘する。

初級の学生はいずれ中上級に進むだろう。そして社会との関わりや異国における自己のアイデンティティ確立の重要性も増し、それと共に適切な言語表現の使い分けの重要度も増してくるだろう。そのときに「はい」「ええ」を戦略的に使い分けられるようになることを視野に入れた指導が、初級の段階では必要だと考えられる。「はい」「ええ」の違いを理解することにより、自分の個性に合わせた言語活動が可能になり、自己のアイデンティティーを表明する手段にもなり得る。つまり独自の「キャラクター作り」にも一役買うだろう。

「はい」「ええ」はコミュニケーションにおいて極めて使用頻度の高い表現である。またその使い分けが微妙なために、誤用運用した場合に、聞き手に対して間違いであることが伝わりにくい。

結果、他者との関係を作り出し、自己のアイデンティティーを表明する上で、不本意な自分を表現してしまう可能性もある。初級の段階で、あまりにも深く細かい違いを説明することは不要だと思われるが、使い分けに関する意識を高めるための土台作りを開始することは有意であると思われる。

注

- (1)原文では、McGloin (1997) は北川・日向の研究を踏まえた上で、「はい」の機能を“making the next move in an interaction”(14) (談話・場面を進行させる)、「ええ」の機能を“participant alignment”(14) (参加・協調) と説明している。なお、日本語訳は筆者による。
- (2)文例については、日向、北川、日本語表現辞典から引用し、() にページ数を示した。特に明記しないものは作例である。
- (3)「新日本語の基礎」には、「日本語の教え方の秘訣」のほかに教師用指導書もある。

参考文献

- 海外技術者研修協会(1990) 「新日本語の基礎Ⅰ」 スリーエーネットワーク
- 北川千里 (1977) 『『はい』と『うん』』『日本語教育』33号 pp.65-72 日本語教育学会
- グループ・ジャマシイ (1998) 「教師と学習者のための日本語表現辞典」くろしお出版
- 国際基督教大学 (1996) 『ICUの日本語初級』講談社インターナショナル
- 阪本俊夫 (2001) 「現代の社会関係と敬語の可能性」『月刊言語』11月 pp.34-42 大修館
- 富樫純一 (2002) 『『はい』と『うん』の関係をめぐって』定信利之編『『うん』と『そう』の言語学』pp.127-157
ひつじ書房
- 日向茂男 (1980) 「談話における『はい』と『ええ』の機能について」『国立国語研究所報告』65号 pp.215
-229 国立国語研究所
- 二宮理佳・金山泰子(2005) 『『ええ』の機能についての一考察—『はい』との比較を通して—』
『ICU日本語教育研究2』pp.51-63 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 金山泰子・二宮理佳 (2006) 『『はい』『ええ』の使い分けに関する意識調査』
『ICU日本語教育研究2』pp.3-31 国際基督教大学日本語教育研究センター
- Association for Japanese-Language Teaching (1996) *Japanese for Busy People*
- Banno Eri, Ohno Yutaka, Sakane Yoko and Shinagawa Chikako (1996) *げんき An Integrated Course in Elementary Japanese* The Japan Times
- McGloin, Naomi H. (1991) Hai and Ee : An Interactional Analysis.
Japanese/Korean Linguistics. Vol.7
- Magara, Susumu (1990) *Japanese for Everyone* Gakusyuu kenkyuusha
- Tohsaku Yasu-Hiko (1994) *ようこそ An Invitation to Contemporary Japanese*
- Tsukuba Language Group (1995) *Situational Functional Japanese* Bonjinsya
Kodansha International